

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和8年6月9日（火）

2 確認箇所

- ・雨水構内散水場所（図1）
- ・雨水淡水化処理RO膜装置等（図1）

3 確認項目

- （1）雨水構内散水の状況
- （2）雨水淡水化処理RO膜装置等の状況

4 確認結果の概要

（1）雨水構内散水の状況

東京電力では、汚染水タンクエリアの堰内に溜まった雨水（以下「雨水」という。）について、雨水回収タンクに集水し、放射能濃度が基準を満足していることを確認した上で、計画的に構内散水している。なお、放射能濃度が基準を上回るものについては、逆浸透膜*（以下「RO膜」という。）による処理を行った上で構内散水している。

今回、構内散水の状況を確認した。（前回確認：令和7年8月25日）

- ・現場確認時は、モバイルRO膜装置の処理水について、雨水散水移送ラインBから構内散水する作業が行われていた。（写真1）
- ・確認した範囲において、散水移送ラインからの漏えい等の異常は認められなかった。

※逆浸透膜：水は通過させるが、イオンや塩類など水以外の不純物は透過させないろ過膜の一種。これにより、雨水に含まれる放射性物質等の不純物を除去する。

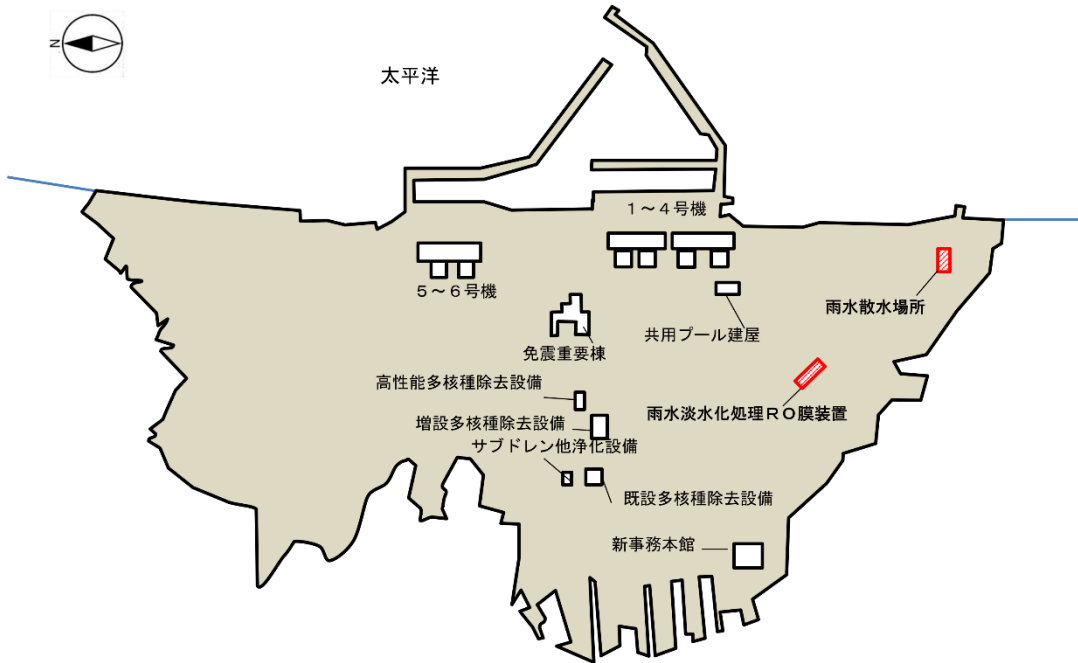
（2）雨水淡水化処理RO膜装置の状況

東京電力では、放射能濃度が基準を上回る雨水のRO膜による処理のうち、令和2年10月から運用を休止している淡水化処理RO膜装置及び関連設備（以下「雨水淡水化処理RO膜装置等」という。）について、原子炉冷却用淡水の安定供給に向けた新たな淡水化装置の設置場所を確保するため、当該設備の解体・撤去を計画している。

今回、雨水淡水化処理RO膜装置の現況を確認した。（前回確認日：令和5年11月14日）

- ・雨水淡水化処理RO膜装置を構成する淡水化処理RO膜ユニット（4基）、雨水受入タンク（3基、フランジ型）、処理水タンク（2基、フランジ型）のいずれについても、前回確認時から状況に変化はなく、引き続き稼働が休止されている状態にあった。（写真2）

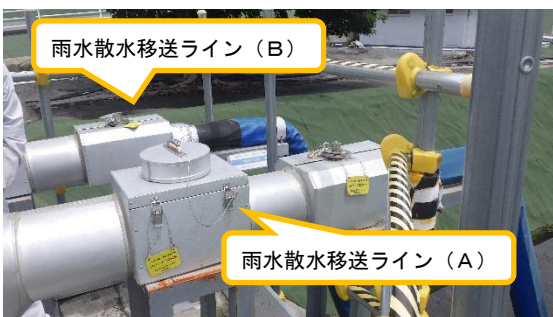
- ・確認した範囲において、雨水淡水化処理RO膜装置等や配管からの漏えい等の異常は認められなかった。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



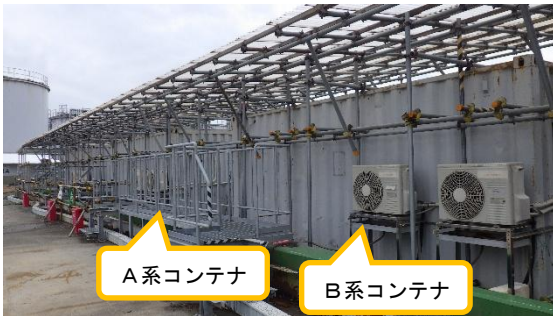
(写真1-1) 雨水構内散水場所



(写真1-2) 雨水散水移送ライン



(写真1-3) 雨水構内散水の状況



(写真2-1) 雨水淡水化处理RO膜装置 (RO膜ユニット (A系、B系))



(写真2-2) 雨水淡水化处理RO膜装置 (RO膜ユニット (C系、D系))



(写真2-3) 雨水受入タンク及び雨水処理水タンク

5 プラント関連パラメータ等確認

確認したデータについて、異常値は確認されなかった。